

令和4年度
鳥取県市長村長等防災危機管理トップセミナー

令和2年7月豪雨における災害対応

大分県日田市
原田 啓介

◆大分県日田市の概要 1



市内を流れる三隈川（筑後川上流域）

- 日田市は、大分県の西部に位置し、福岡県と熊本県に隣接した北部九州のほぼ中央に位置しています。
- 周囲を阿蘇、くじゅう山系や英彦山系の美しい山々に囲まれ、**これらの山系から流れ出る豊富な水が日田盆地で合流し、**筑後・佐賀平野を貫流しながら、流域住民と福岡都市圏住民の生活や産業を潤しています。
- 古くから北部九州の各地を結ぶ交通の要衝として栄え、江戸時代には幕府直轄地、天領として西国筋郡代が置かれるなど、九州の政治・経済・文化の中心地として繁栄し、当時の歴史的な町並みや伝統文化が、今なお脈々と受け継がれています。
- 平成17年3月に日田市と前津江村、中津江村、上津江村、大山町、天瀬町の1市2町3村で合併しました。

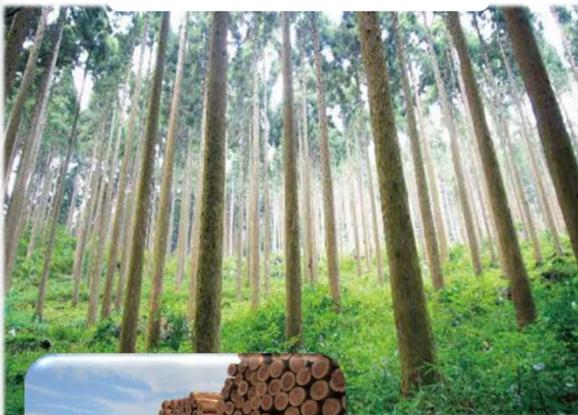
◆大分県日田市の概要 2

- 面積：666.03km²(東西24.88km、南北48.63km)
市域の78.7%が山林
- 海拔：最高1,231m、最低38m、市内中心部80m
- 人口：62,470人（令和4年4月30日現在）
- 私塾「咸宜園」や塾と共生したまち「豆田町」等が教育遺産群として日本遺産に認定
- 「日田祇園の曳山行事」はユネスコ無形文化遺産に登録

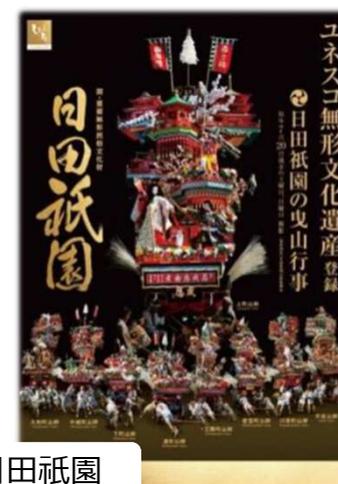
市内中心部を流れる三隈川（筑後川）



日田の林業・木材産業



咸宜園



日田祇園

◆日田市で発生した近年の水災害（主なもの）

平成24年7月九州北部豪雨

7月3日、梅雨前線が九州北部に停滞。暖かく湿った空気が流れ込み、国土交通省花月観測所において、午前7時からの1時間で、81mm、3時間雨量で172mmの当時観測史上最多の降雨を記録。

また、14日未明からも豪雨となり、花月観測所で1時間63mm、椿ヶ鼻観測所では1時間85mm、午前0時からの8時間で247.0mmの雨量を観測。3日に被害を発生させた河川に加えて、市内広範囲に住宅の倒壊や浸水などの被害をもたらした。

2回の豪雨により死者1名、負傷者1名、711棟で住家被害が発生。
(両日とも被害を受けた家屋は1回でカウント。)

平成29年7月九州北部豪雨

福岡県朝倉市から日田市北部にかけて形成した線状降水帯により、7月5日昼ごろから、断続的に大量の雨が降り続き、市北部を中心に大きな被害をもたらした。また、降雨が小康状態となった翌6日には、小野地区において大規模な崩落が発生し、巡回中の消防団員が犠牲となった。

平成30年7月豪雨

西日本を中心に平成最大の豪雨被害をもたらした7月豪雨は、本市では5日から8日までの期間降水量が、椿ヶ鼻で496mm、日田で372.5mmを観測した。全壊1棟、床下浸水2棟などの被害があったが、人的被害はなかった。

令和2年7月豪雨

7月6日から8日にかけて、梅雨前線が九州北部に停滞。暖かく湿った空気が流れ込み、日田市中津江村鯛生地区で24時間534mm、48時間雨量855mmの降雨を記録するなど、市内各所で観測史上最多の降雨を記録した。

この豪雨により、筑後川水系玖珠川が氾濫し天瀬地区で甚大な被害が発生、また筑後川が2回にわたり氾濫したほか、上・中津江地区では多くの箇所土砂崩れが発生し、多くの家屋、道路等の被害が発生した。

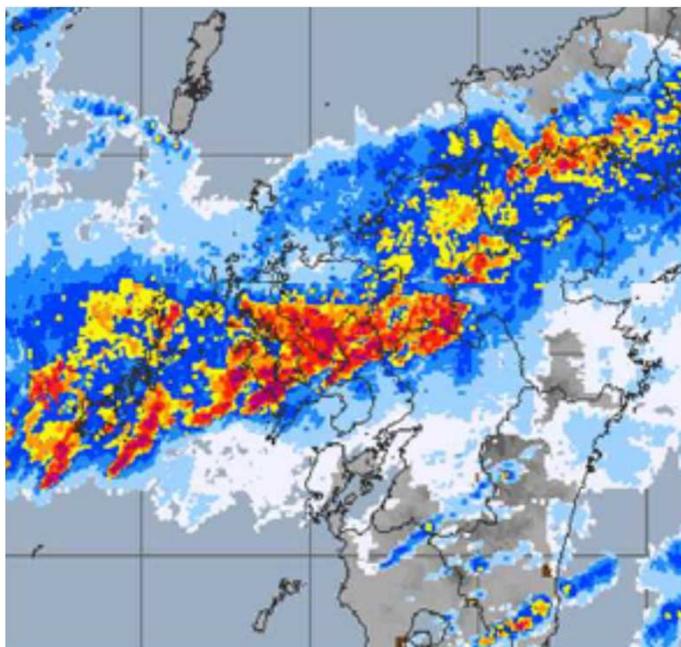
◆令和2年7月豪雨の概要

7月3日から8日にかけて、梅雨前線が九州付近にほとんど停滞し、前線の活動が非常に活発で、九州では4日から7日にかけて記録的な大雨となった。

日田市では6日から8日にかけて大雨となり、日田市中津江地区鯛生で24時間534mm、48時間雨量855mmの降雨を記録するなど、市内各所で観測史上1位の降雨を記録した。

この豪雨により、筑後川水系玖珠川が氾濫し天瀬地区で甚大な被害が発生、また筑後川が2回にわたり氾濫したほか、上・中津江地区では多くの箇所では土砂崩れが発生するなど、広範囲に家屋の被災、幹線道路をはじめとする道路被害が多数発生した。

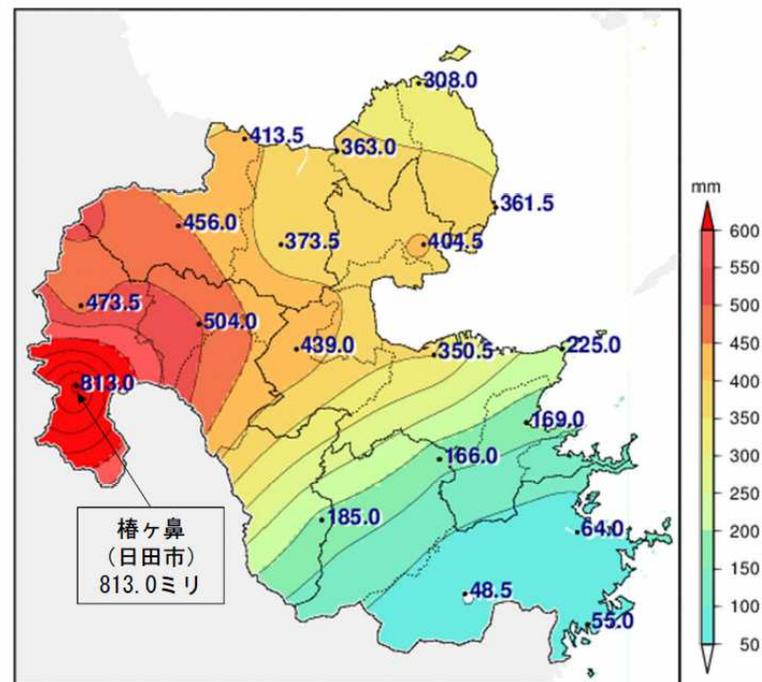
【気象レーダー画像（令和2年7月6日15時）】



出典：気象庁提供資料

【アメダス総降水量の分布図（7月6日01時～8日09時）】

地点名	総降水量 (ミリ)
椿ヶ鼻	813.0
玖珠	504.0
日田	473.5
耶馬溪	456.0
湯布院	439.0
中津	413.5
杵築	404.5
院内	373.5
豊後高田	363.0
武威	361.5
大分	350.5
国見	308.0
佐賀関	225.0
竹田	185.0
臼杵	169.0
犬飼	166.0
佐伯	64.0
蒲江	55.0
宇目	48.5



出典：大分地方気象台「令和2年7月6日から8日にかけての大分県の大雨について」

【各観測地点の降水量】

単位：mm

観測地点	1時間	3時間	6時間	12時間	24時間	48時間
日田	40.0	77.0	114.0	163.5	272.0	461.5
椿ヶ鼻(前津江地区)	80.5	136.0	185.0	308.0	497.0	792.5
鶴河内(大鶴地区)	54.0	157.0	235.0	299.0	438.0	620.0
鯛生(中津江地区)	80.0	144.0	219.0	310.0	534.0	855.0
杖立(熊本県)	95.0	146.0	212.0	277.0	447.0	663.0
玖珠(玖珠町)	57.5	92.5	135.5	186.0	310.0	493.5
野上(九重町)	84.0	141.0	213.0	261.0	412.0	588.0

は観測史上最大

日田、椿ヶ鼻、玖珠は7月6日～8日9時のアメダス降水量の最大値

上記以外の観測地点は7月5日～8日までの国交省設置した雨量計が観測した最大値

【河川水位の状況】

○最高水位 小淵観測所 5.39m(7月7日 8:30) 観測史上最高 ※計画高水位：5.55m

○氾濫発生 筑後川右岸72K000付近【北友田地区】
(7月7日 8:05、7月8日 0:45)

【避難所運営の状況】

○最大開設数 54か所（自主避難所も含む。）

○避難者数 487世帯、981人

※ 開設した避難所における最大避難者数を積上げた数

【人的被害】

死者1名、負傷者4名

【ライフライン等の最大被害の状況】

水道断水 4地区 給水戸数264 給水人口611
 停電 中津江地区全域（1週間）を含む2,340戸
 電話不通（携帯も含む） 中津江地区全域（10日間）ほか

【交通規制の最大時の状況】

全面通行止め 97カ所

【住家及び非住家被害】

単位：件

	全壊	大規模半壊	半壊	準半壊	一部損壊	計
住家	53	35	53	36	88	265
非住家	37	11	36	26	77	187

【床上・床下浸水被害】

単位：件

	床上浸水	床下浸水	計
住家	147	50	197
非住家	113	19	132

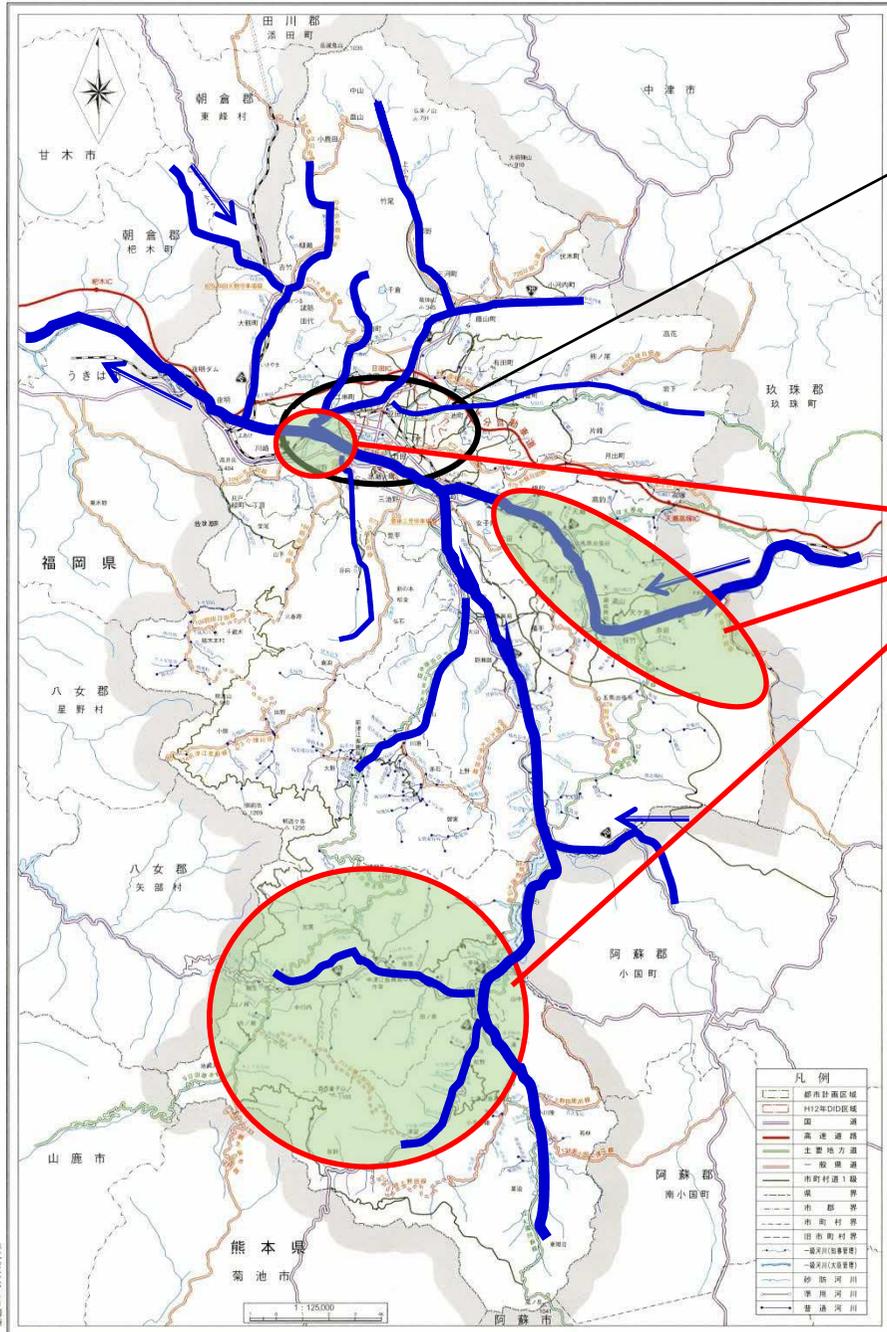
【その他の被害】

単位：件

道路	河川・砂防	公共施設	土砂災害	農林水産被害	その他	火災	ライフライン
271	217	4	55	266	65	0	8

◆令和2年7月豪雨の概要

【日田市全図から見る被害エリア】



日田市中心部

降雨により特に被害が多く発生したエリア

- 令和2年7月豪雨では、筑後川上流部の津江地域をはじめとする多くの地点で、観測史上1位の降雨を観測。
- 山間部で土砂災害が多数発生したほか、天瀬地区、市内中心部の一部で河川氾濫により大きな被害が発生した。

※市内を流れる河川は、
全て筑後川水系の上流部にあたる。

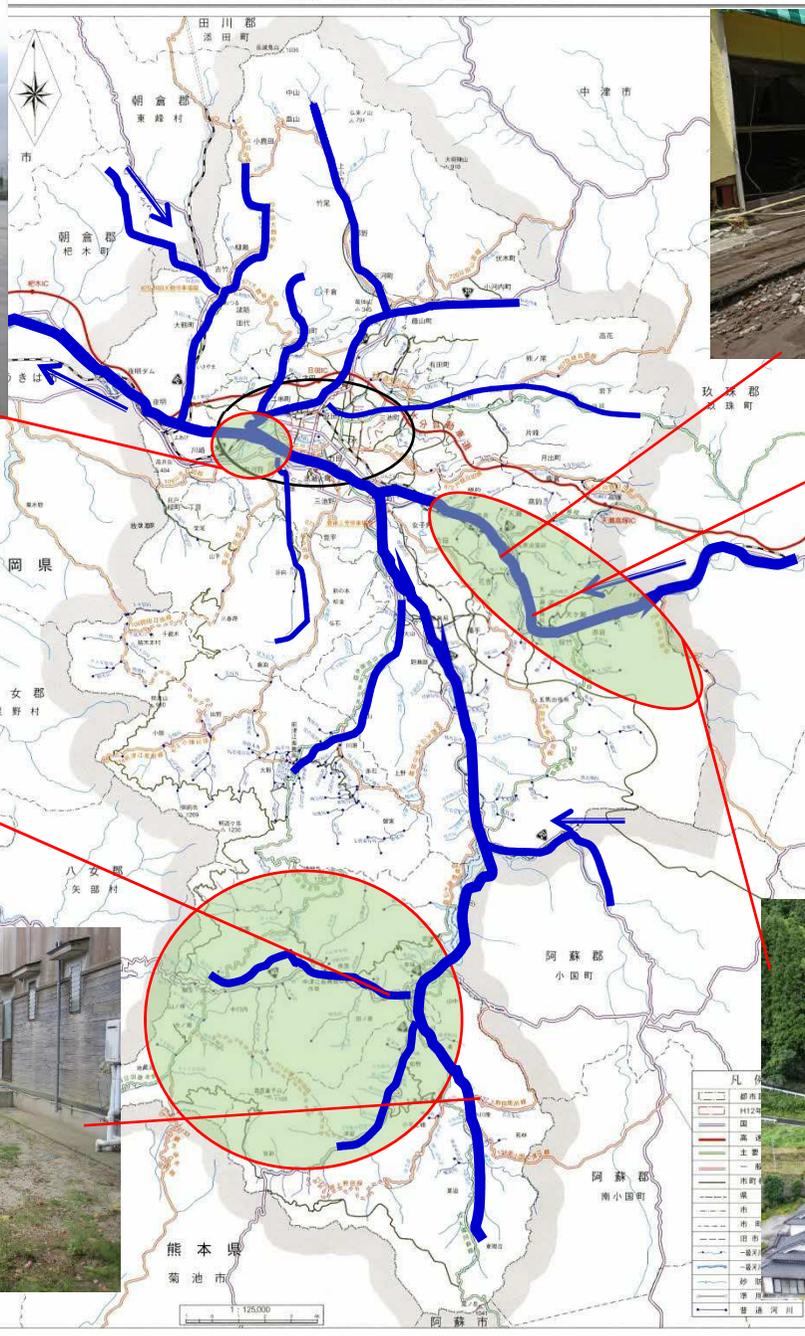
◆令和2年7月豪雨の概要

【被害写真】

筑後川水系花月川00K100右岸カヌラ



大分県日田市北友田地先
友田地区筑後川氾濫



天ヶ瀬温泉街玖珠川氾濫



天瀬湯の釣地区玖珠川氾濫



中津江地区土砂崩れ



上津江地区地滑り



天瀬杉河内地区土砂崩れ

◆避難情報発令の判断

市の面積が666km²と広く、南北に長いため、前線が停滞・通過する場所により、市内でも降雨量が大きく異なる。

日田市で起こる災害（水害）

- 山間部 … 土石流、土砂崩れ、地滑り、倒木などによる被害
- 市中心部 … 内水氾濫、堤防越水、堤防決壊などによる浸水被害

⇒ 降雨の場所により、被害の種類、程度が大きく変わる。
地形、河川、ダムの有無など、地域の特徴を把握しておき、これまでの降雨状況や、今後の気象状況や降雨量、河川の状況を注視し、事前に被害を想定することは重要。
また、河川事務所や气象台とのホットラインも重要な情報。

地域防災計画に定める避難情報発令の運用基準

【雨量による避難指示の判断基準の例】

前日までの降雨状況	高齢者等避難	避難指示
連続雨量が150mm以上	当日の日雨量が50mmを超えたとき	当日の日雨量が50mmを超え、時間雨量が30mm以上の強い雨が予想されるとき
連続雨量が40～150mm	当日の日雨量が80mmを超えたとき	当日の日雨量が80mmを超え、時間雨量が30mm以上の強い雨が予想されるとき
連続雨量が0mm	当日の日雨量が100mmを超えたとき	当日の日雨量が100mmを超え、時間雨量が30mm以上の強い雨が予想されるとき
その他	土砂災害警戒情報及び補足情報が発表されたとき 本部長が必要と認めたとき 短時間での豪雨が予想され、洪水等の被害が予想される場合	

◆避難情報発令について

- 前ページのように地域防災計画、災害対応マニュアルにおいて、“雨量”による判断基準と“河川水位”による避難情報発令の判断基準をあらかじめ定めている。
 - 近年の突然の豪雨や異常とも思える降雨量などから、判断基準に達していなくても、今後の気象予報などを総合的に判断するとともに、夜間の移動による被災を防止する観点から、“**早めの発令**” “**明るいうちに発令**” を行うように心がけている。
- ⇒ 空振りも多くなる可能性はあるが、人命が第一であること、また、住民に危険性を認識してもらうことが重要と考える。

避難情報発令の判断（決断）をしても、関係職員の招集、避難所開設の準備、放送原稿の作成、各システムを使った伝達（防災無線放送など）などの手順に、相当の時間がかかる場合がある。

【避難情報の発令までの手順】

- ①避難対象世帯数、人数の把握
- ②開設避難所の選定
- ③避難所開設の準備

※市では、避難所開設の準備時間をコロナ感染症対策を含め1時間としている。

- ④放送文書の作成及び文書内容の上司確認（決裁）
- ⑤防災行政無線、エリアメール、市防災メール、市HPなど、それぞれの情報発信メディアで発令準備し一斉に発令

⇒令和3年度に各種情報発信メディアに対し一括配信を行えるシステムを整備

- ⇒ 避難情報を発令するか否かは、今後の気象状況を予測しながら、避難所開設時の2時間前までには決定する必要がある。
- 事前に、各担当部署と準備、調整を行っておくことが重要。

◆日田市が運用している主な防災情報伝達手段【行政からの情報の伝達】

①60MHz帯デジタル防災行政無線（屋外スピーカー）

市内267箇所の屋外スピーカーより防災情報を職員が放送しお知らせする。

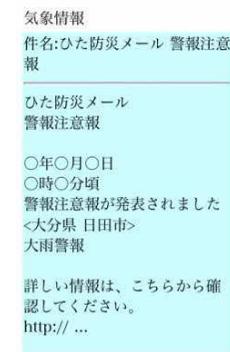


②防災行政無線電話応答システム

防災行政無線の放送内容を聞き返すことができる電話サービス。

③ひた防災メール（登録制メール）

登録者に、防災行政無線の放送内容をメールにてお知らせするサービス。
気象情報等も配信する。



④KCV文字放送（KCV加入者（市内全域）：ケーブルテレビ）

防災行政無線の放送内容は、ケーブルテレビの文字放送でも確認できる。
基本的に、防災メールと同じ情報が連動して掲載される。



⑤市公式のホームページ、Facebook,LINE,Twitter

⑥エリアメール（対象エリアの携帯電話へ一斉配信）



◆次に備える防災体制の強化・見直し 【行政からの情報の伝達】

■日田市の情報伝達手段（前ページ参照）

- 60MHz帯デジタル防災行政無線（屋外スピーカー）
- ひた防災メール（登録必要）
- KCV文字放送（ケーブルテレビ加入者）
- エリアメール（対象エリアの携帯電話へ一斉配信）など
- 防災行政無線電話応答システム
- 市の公式HP・FB・LINE・Twitter

- 平成29年7月九州北部豪雨災害では、土砂崩れが至るところで発生。
- 停電や光ケーブルの断線に伴い、テレビ、固定電話、携帯電話などが全て不通となり、情報が伝わらない事態が発生。
⇒ **市民の情報収集手段、市からの情報伝達手段が途絶える。**



新たな情報伝達手段の導入・・・**有線に頼らずに各家庭に情報を伝達する。**

280MHzデジタル同報無線システムを整備し、各世帯へ「防災ラジオ」を無償貸与

- 1カ所の基地局（前津江町釈迦岳）で日田市全域を網羅できる
- 工期 令和元年8月～令和2年9月（令和2年6月より試験運用）



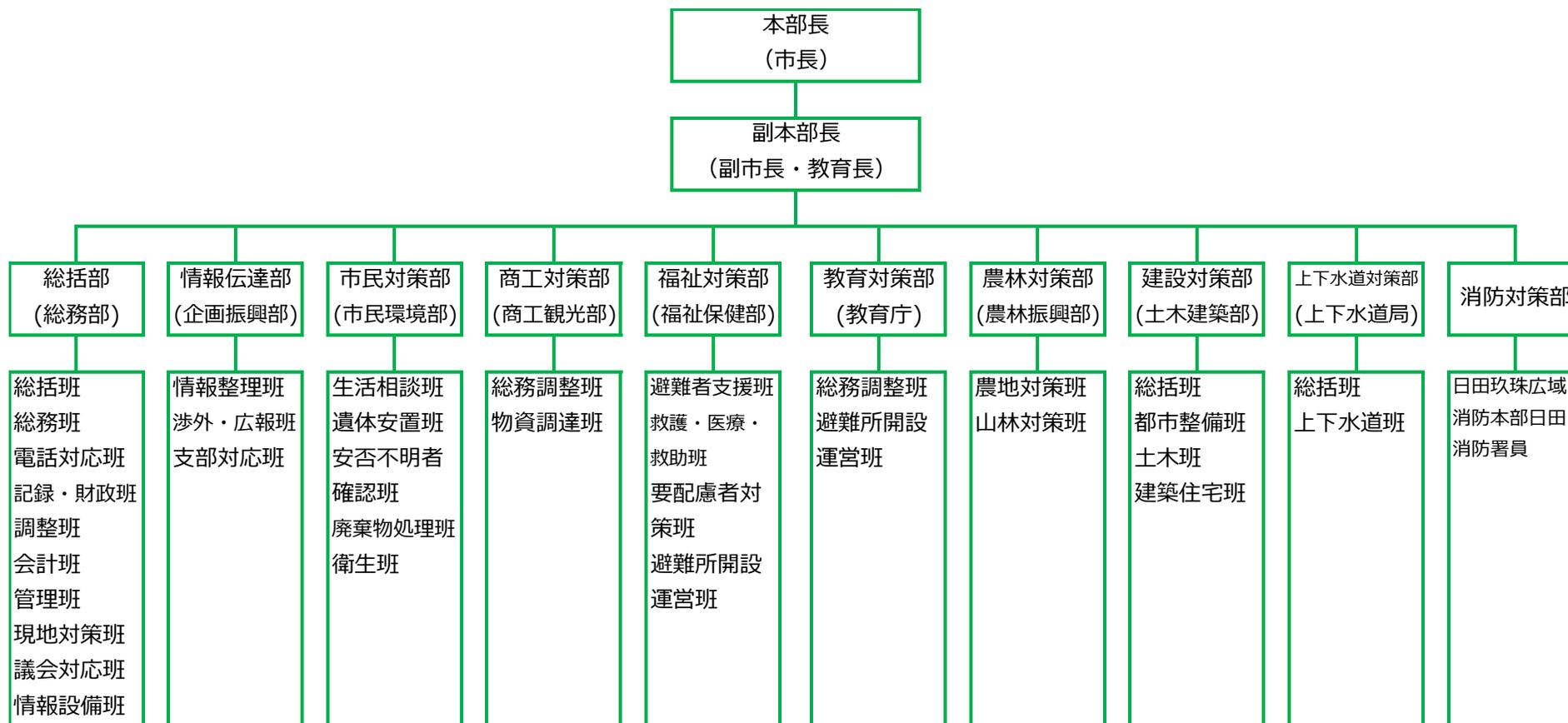
令和2年7月豪雨災害でも、土砂崩れ、河川氾濫が発生し、停電や光ケーブルが断線したことで、平成29年7月九州北部豪雨時よりも長期に渡り、テレビ、固定電話、携帯電話、インターネットなどが全て不通となった。

⇒ **280MHz「防災ラジオ」が唯一の伝達手段として機能。**（乾電池で電源確保）

地域の特性にあった、情報伝達手段の整備

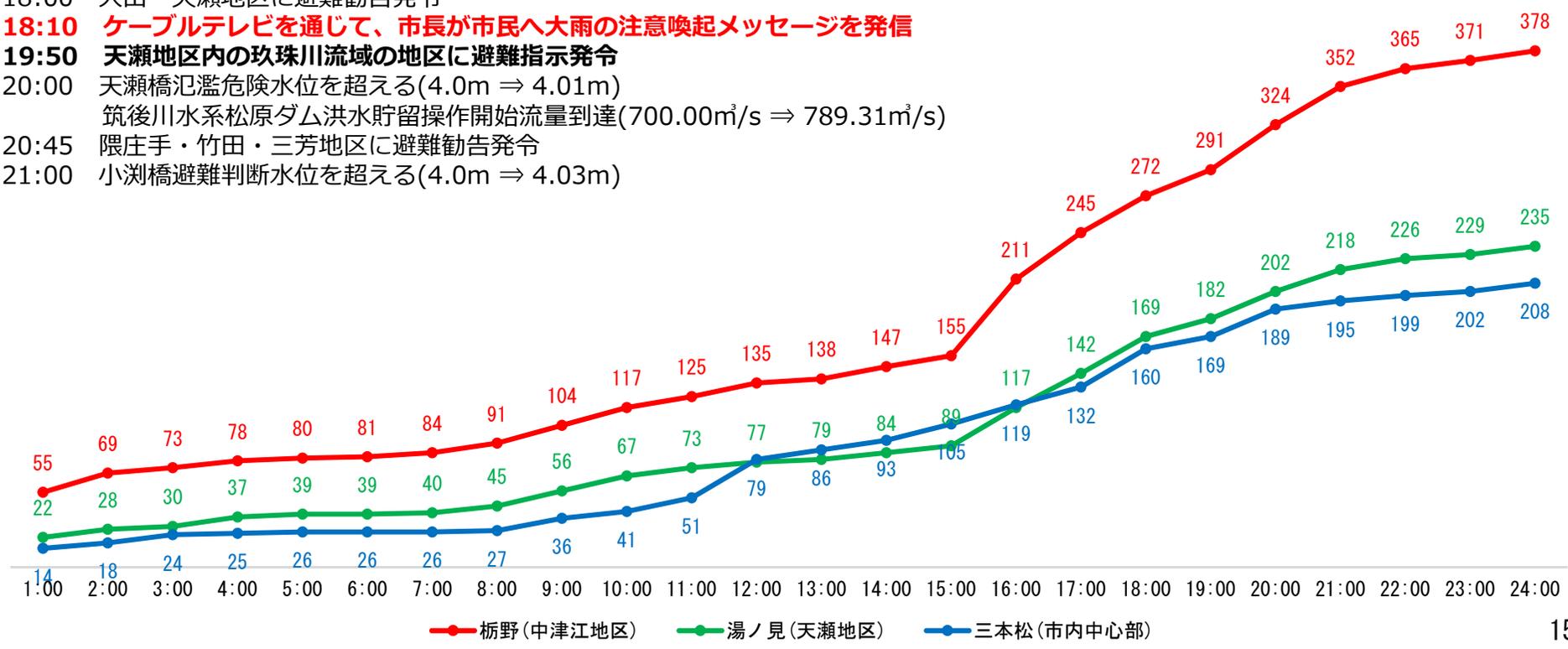
令和2年7月豪雨災害における 災害対応

◆ 日田市の災害対策本部体制



◆7月6日の累加降雨と市等の対応

- 0:04 災害情報収集室設置
- 2:30 **大雨警報発令**
災害警戒準備室（第3号）設置
- 11:40 **土砂災害警戒情報発令**
- 11:47 **洪水警報発令**
- 11:52 災害警戒準備室（第4号）設置
大鶴公民館へ4名自主避難
- 12:30 **災害警戒本部設置**
大鶴・小野地区に避難勧告発令
- 13:10 中津江・上津江地区に避難勧告発令
大鶴・小野・中津江・上津江地区以外の市内全地区に避難準備・高齢者等避難開始発令
- 14:00 夜明・三花地区に避難勧告発令
- 15:00 前津江・五和・高瀬・朝日・西有田・東有田地区に避難勧告発令
- 16:00 **災害対策本部設置**
- 16:40 **光岡・高瀬・朝日・三花・西有田・東有田・小野・大鶴・夜明・五和・前津江・中津江・上津江地区に避難指示発令**
- 18:00 大山・天瀬地区に避難勧告発令
- 18:10 **ケーブルテレビを通じて、市長が市民へ大雨の注意喚起メッセージを発信**
- 19:50 **天瀬地区内の玖珠川流域の地区に避難指示発令**
- 20:00 天瀬橋氾濫危険水位を超える(4.0m ⇒ 4.01m)
筑後川水系松原ダム洪水貯留操作開始流量到達(700.00m³/s ⇒ 789.31m³/s)
- 20:45 隈庄手・竹田・三芳地区に避難勧告発令
- 21:00 小淵橋避難判断水位を超える(4.0m ⇒ 4.03m)



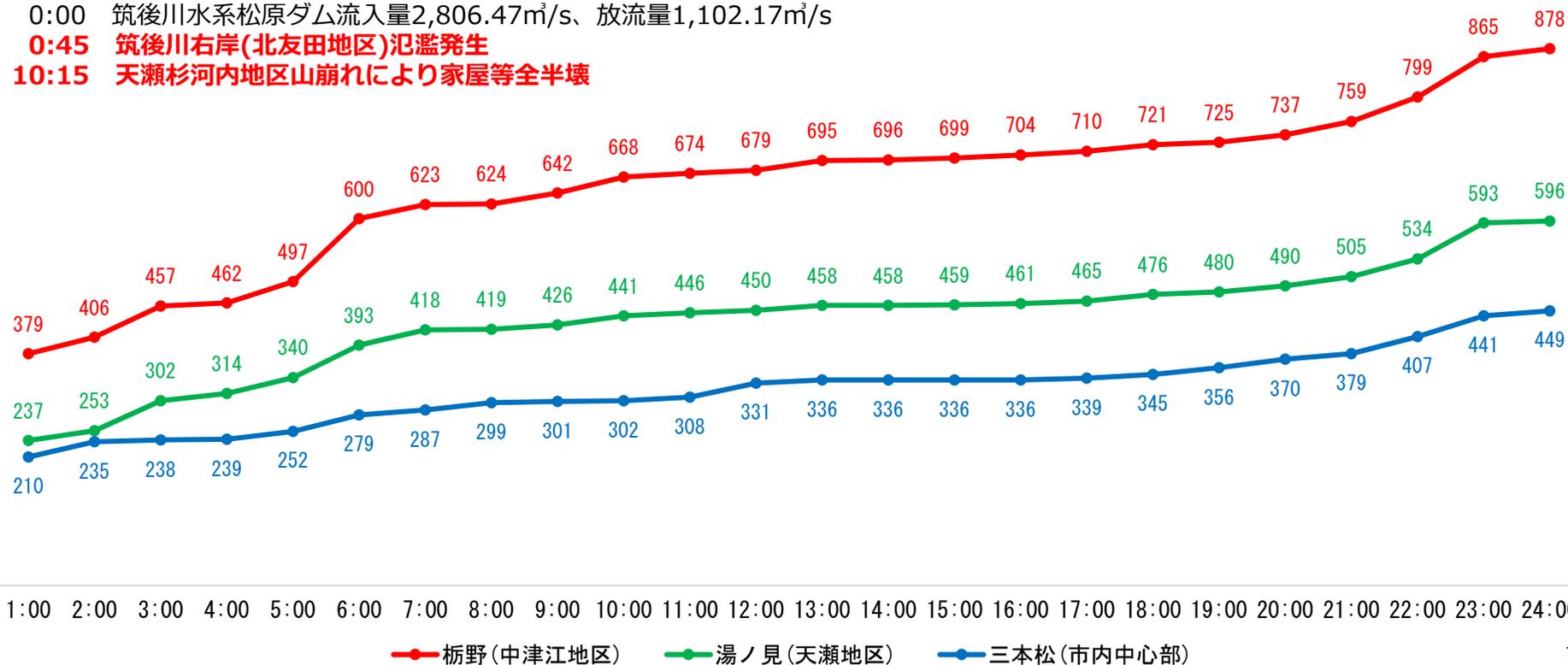
◆7月7日の累加降雨と市等の対応

7月7日

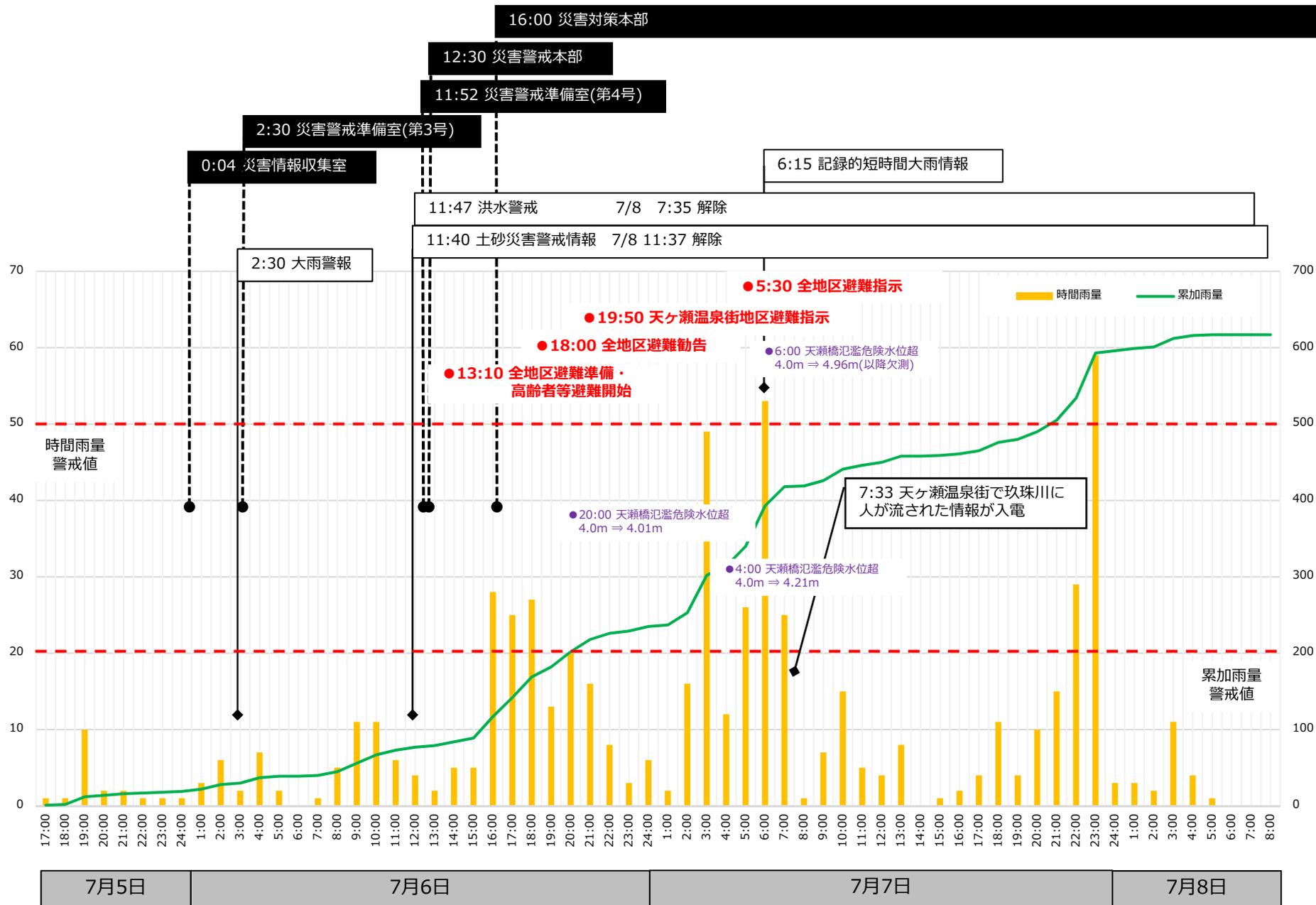
- 4:00 天瀬橋氾濫危険水位超える(4.0m ⇒ 4.21m)
- 5:30 天瀬全地区・大山地区に避難指示発令**
- 6:00 天瀬橋氾濫危険水位(4.0m ⇒ 4.98m) 以降、水位計の流失のため欠測
- 6:15 中津江・天ヶ瀬付近記録的短時間大雨情報が発表される**
- 6:30 咸宜・桂林・田島地区に避難勧告発令
- 7:00 小淵橋氾濫危険水位を超える(4.5m ⇒ 4.91m)
中津江地区の栃野で山崩れにより老人福祉施設等へ土砂流入
- 7:33 天ヶ瀬温泉街玖珠川流域で人が流されたとの情報が入る**
- 8:05 筑後川右岸(北友田地区)氾濫発生**
- 8:30 小淵橋氾濫危険水位を超える(4.5m ⇒ 5.39m)
- 10:00 県知事へ自衛隊の災害派遣を要請**
- 10:30 筑後川水系下釜ダム異常洪水時防災操作開始**
- 12:33 防災ラジオを通して、市長が災害状況、河川増水への注意喚起、明るいうちの避難の呼びかけのメッセージを発信

7月8日

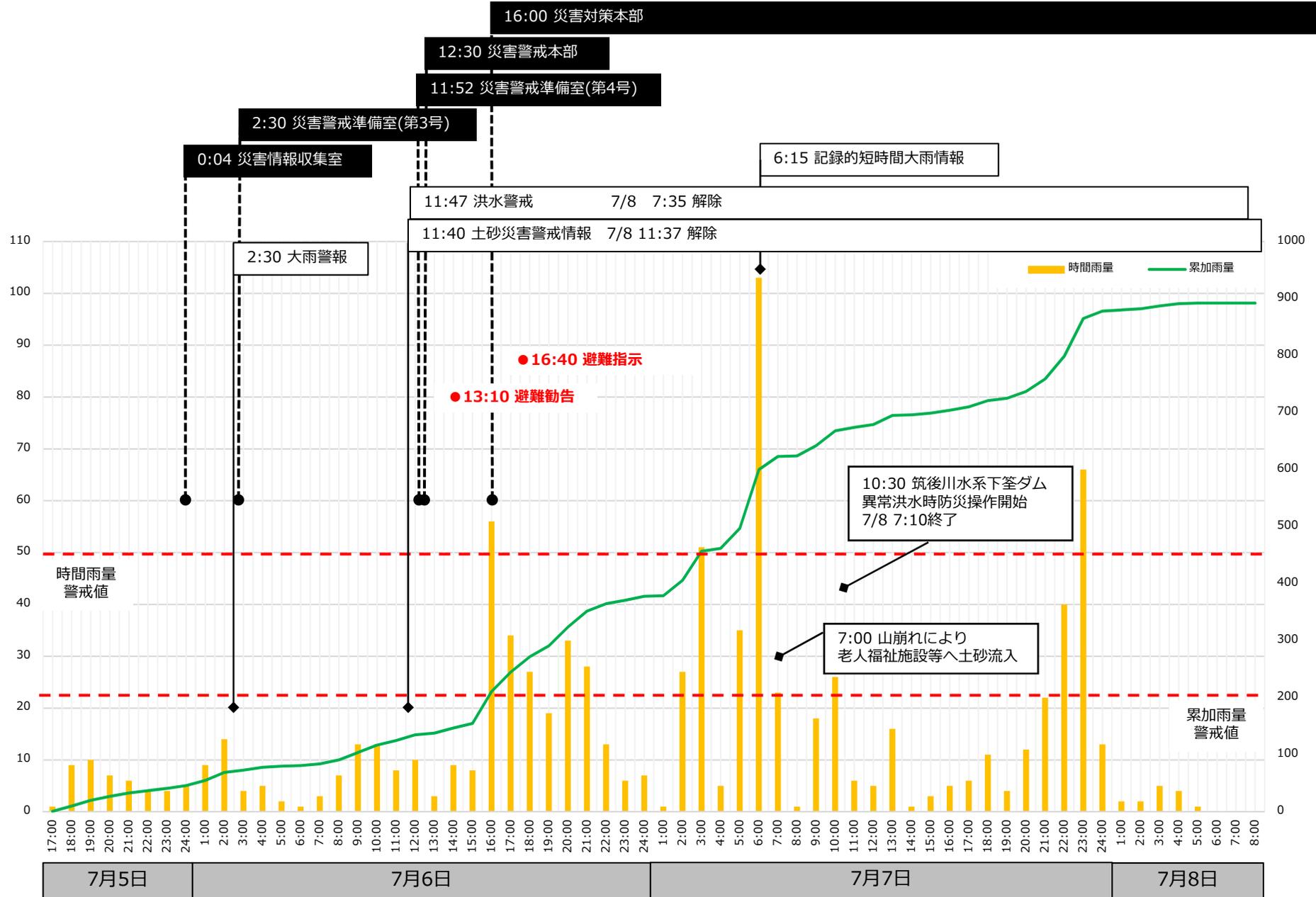
- 0:00 筑後川水系松原ダム流入量2,806.47m³/s、放流量1,102.17m³/s
- 0:45 筑後川右岸(北友田地区)氾濫発生**
- 10:15 天瀬杉河内地区山崩れにより家屋等全半壊**



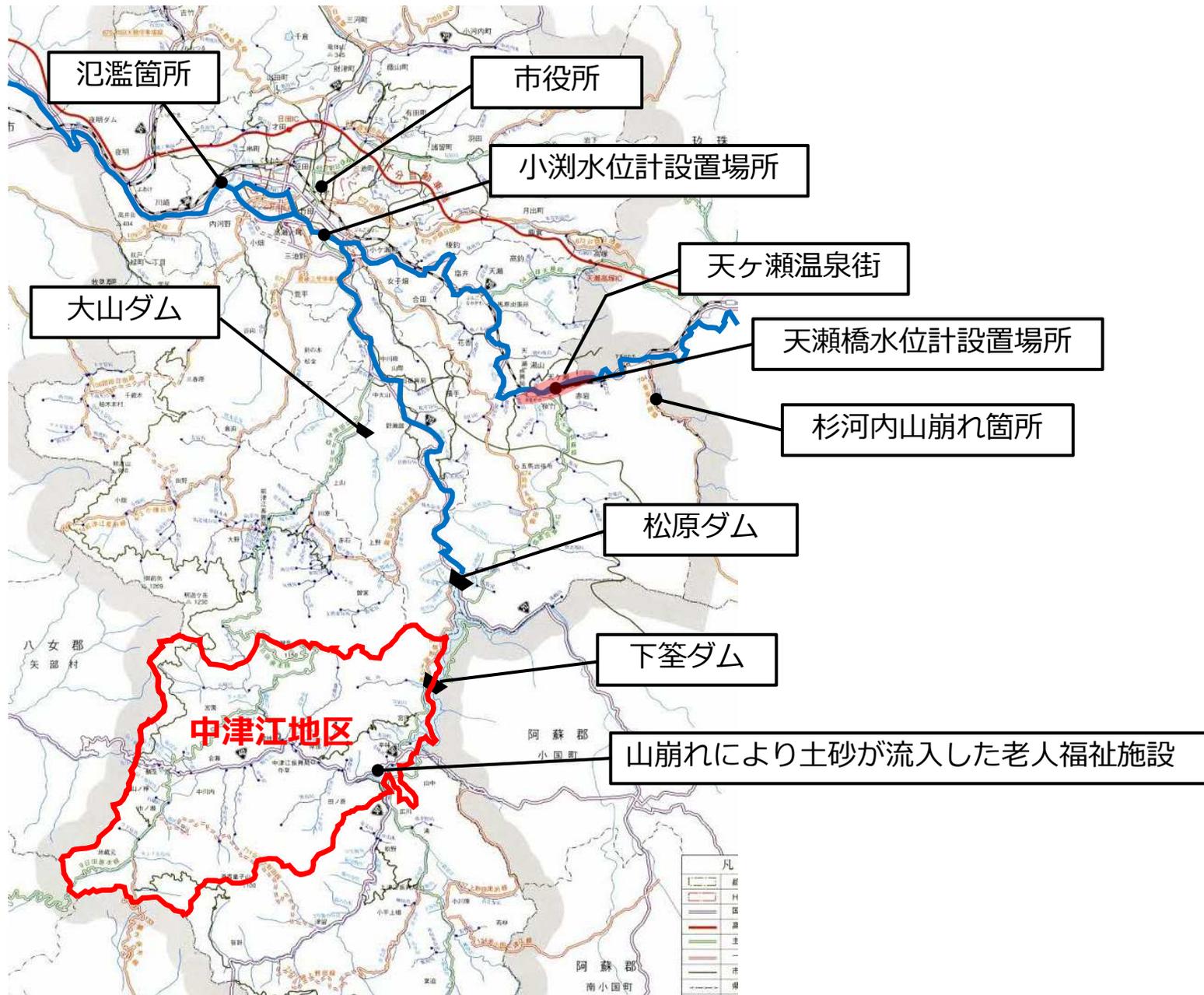
◆雨量と天瀬地区における市の対応



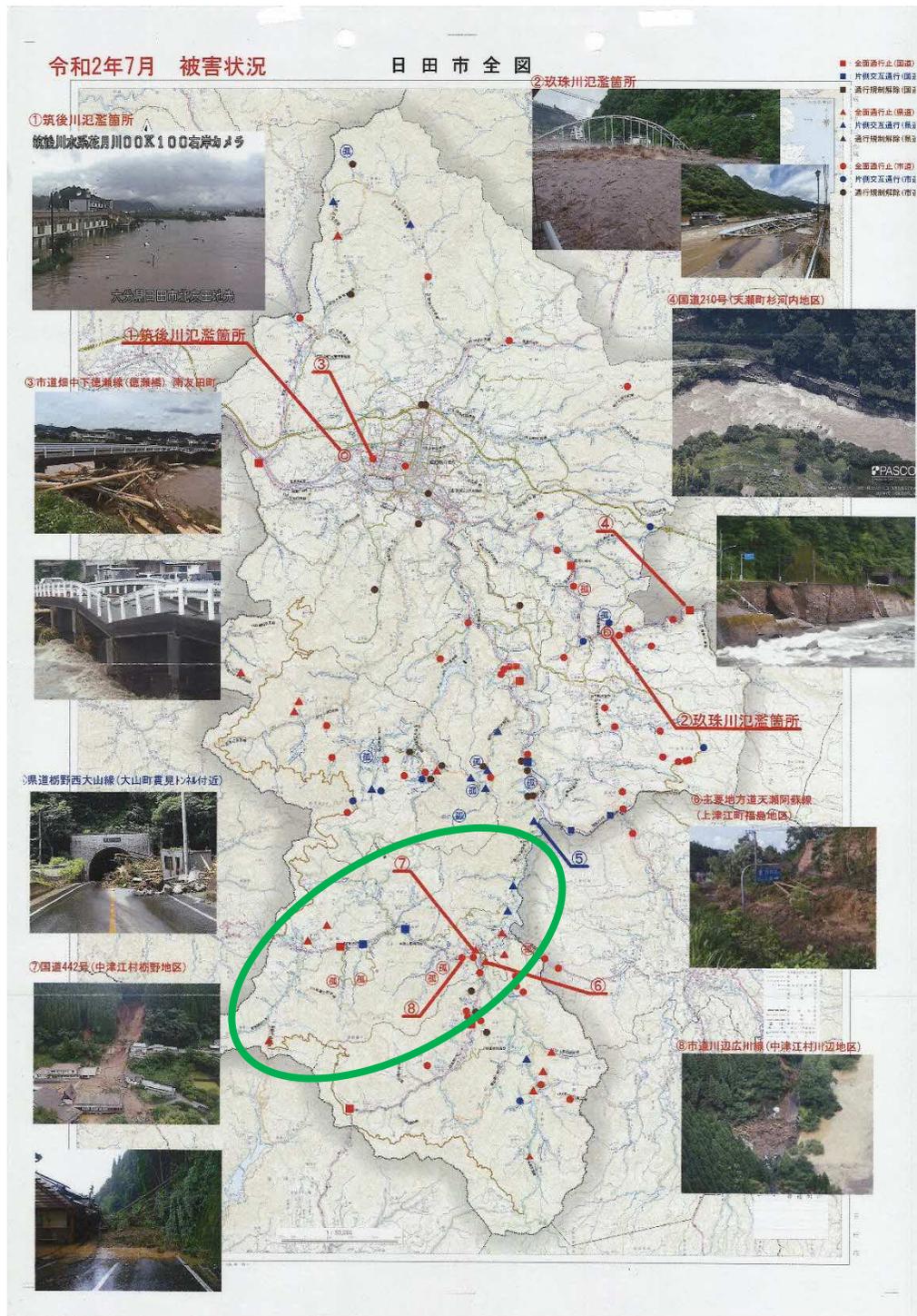
◆雨量と中津江地区における市の対応



◆各施設等の位置図 《参考》



令和2年7月豪雨災害において 直面した課題



◆被害状況の把握

令和2年7月豪雨は、各観測地点で観測史上最大の降雨量となり、河川の氾濫、土砂崩れや倒木により、国道、県道、市道が通行止めとなるとともに、停電、電話が不通となり、被害状況の把握に困難を極めた。

中津江地区（緑色で囲んでいる地区）

○地区内の国県市道が土砂崩れや倒木等により通行止め箇所が多数発生
地区内の幹線道路が長期間通行止

- 地区全域で停電が1週間
- 携帯電話を含む電話が10日間不通
- 市が敷設した情報ネットワーク網が寸断



- 衛星携帯電話で中津江振興局とやり取りし、状況把握に努める。
- 自衛隊災害派遣を要請し、自衛隊・消防・警察で全世帯の安否を確認
- 本庁職員が現地に入り被害状況把握

◆住民の避難の徹底

- 令和2年7月豪雨災害でも、避難された方の中には、これまで災害がなかったから、大丈夫といった安心感で、速やかな避難行動に結びつけていない事例もあった。
- 市民には、これまでの災害経験や、ハザードマップ等により、自分の住む地域にどのような災害リスクがあるか、あらかじめ、知っていただくことが必要。
- テレビやラジオからの大雨や台風など気象に関する情報、また、市が発信する気象警報発表などに伴う注意喚起や、避難情報、避難所の開設状況などの情報を、いかにして市民の避難行動につなげるか。

⇒ 平成29年7月豪雨災害時から、大きな災害発生の恐れがある場合や、実際に災害が発生している時に、自らメッセージを発信し、現状の説明や、危機感を伝え、命を守る行動をとるよう呼び掛けている。



ケーブルテレビを通じて、自らメッセージを発信する

⇒ 市民に対し、速やかに確実に情報発信を行うとともに、自らが的確な避難行動がとれるよう、市民の方々に対し広報による周知を行うほか、自治会や自主防災組織の学習会や防災訓練などへ支援を行う。

◆次に備える防災体制の強化・見直し 【平時からの市民の防災意識の醸成】

- 市の情報などから、適切な避難行動につなげる組織・人の育成
- 平時から、市民の防災意識を高める取り組み

市民の防災意識向上への取り組み

- 地域において、防災の啓発活動などを行ってもらうなど、地域の防災リーダーとなる「**防災士**」を自治会（自主防災組織）を主体として養成・育成（令和3年度末 671名）
- 自主防災組織が行う防災訓練、学習会等の助成や、自主防災用品・備蓄品等の購入を助成
- 自主防災組織活動の進んでいない地域に講師を派遣し、自主防災組織の体制の確立や防災活動の取り組み支援を行う。
- 希望する自治会や自主防災会などの団体を対象に、災害に備え、ハザードマップの作製や防災ワークショップなどのプログラムを行う「体験型防災プログラム」を令和2年度より開始
 - ※プログラム内容：避難所感染症対策、まちあるきハザードマップ作り、避難所運営ゲーム、マイ・タイムラインなど12種類



自主防災組織（自治会）での防災研修

コロナ禍における避難所配置の見直し

密状態を避けるため、過去の避難者数などを参考に、避難所での収容人数や開設する避難所を事前に見直し、それらを含む避難所での感染リスクに対する取り組みを、出水期前に各地域（自治会、防災士）に出向いて説明するとともに、全世帯にチラシを配布。

⇒避難にためらうことなく、危険を感じたら安心して避難してもらう。

避難情報を、避難行動(危険な場所、安全な場所の認識)に繋げることが重要。

◆次に備える防災体制の強化・見直し 【平時からの市民の防災意識の醸成】

中山間地域の課題

- 666.03km²の市域に散らばった形で集落を形成している。
- 中山間地域ほど、災害の危険性が高い。
- 高齢化や人口減少が著しく進行しており、**自治会機能の低下**が懸念される。
⇒ 自治会役員の担い手の不足。避難情報が届いても行動できるかという課題。
高齢化率（令和4年3月31日現在） 中津江地区53.34%、上津江地区53.84%
- 市役所職員数の減少も今後予想される。



自治会運営そのものを見直す必要性がある



新たな住民自治組織

現実に沿った**新しい住民自治**のあり方へと変えていく ⇒ 住民自治組織立ち上げ

新たな情報伝達手段（280MHz「防災ラジオ」）

- 避難情報など緊急情報を**迅速確実に伝達**
- 情報配信エリアを地区（学区など）や自治会に設定でき、地域のコミュニティツールとして、**地域活動を補完する設備**としての活用

◆次に備える防災体制の強化・見直し 【平時からの市民の防災意識の醸成】

新たな住民自治組織の立ち上げ

人口の減少や高齢化が著しい市内周辺部では、地域の住民が自らの意志と責任・行動によって、素早く対応するとともに、個性的なまちづくりを進めることが必要になっていることから、活動の主体となる組織づくりと組織を支える仕組みを構築し、住民が将来にわたって安心して暮らせる地域をつくることが重要

平成30年10月1日 中津江地区住民自治組織立ち上げ
令和2年6月1日 上津江地区住民自治組織立ち上げ

【住民自治組織の基礎的業務】

- 独居老人等への声かけ・相談
- 関係機関への情報提供と共有
- 地域活性化プランの策定
- 地域振興協議会事務 など

事業例

- 道路パトロール
- テレビや電話等の障害確認
- 不法投棄現場確認
- 河川水質検査
- 避難所運営支援
- 災害支援物資の管理 など

令和2年7月豪雨災害時に、多くの土砂崩れにより、集落が長期にわたり寸断された中津江地区では、住民自治組織が中心となり、高齢者宅への薬の宅配や、支援物資の配付、住民の避難先情報を取りまとめ振興局（市の支所）へ提供するなど、中山間地域での災害時にあって、非常に重要な役割を担った。

◆令和2年7月豪雨時の対応時系列① 《参考》

日時	内容	備考	災害状況等
7/6	0:04	災害情報収集室設置	
	2:30	大雨警報発令	7/13 5:03 解除
	2:30	災害警戒準備室(第3号)設置	
	11:40	土砂災害警戒情報発令	7/8 11:37 解除
	11:47	洪水警報発令	7/8 7:35 解除
	11:52	災害警戒準備室(第4号)設置 大鶴公民館へ4名自主避難	
	12:30	災害警戒本部設置 大鶴・小野地区 避難勧告発令	320世帯、2,025人
	13:00		法面崩壊等の被害情報が入り始める
	13:10	中津江・上津江地区避難勧告発令 大鶴・小野・中津江・上津江地区 以外の地区避難準備・高齢者等避難開始発令	708世帯、1,469人
	14:00	夜明・三花地区避難勧告発令	3,803世帯、8,971人
15:00	前津江・五和・高瀬・朝日・西有田・東有田地区避難勧告発令	5,573世帯、13,588人	
16:00	災害対策本部設置		

◆令和2年7月豪雨時の対応時系列② 《参考》

日時	内容	備考	災害状況等	
7/6	16:40	光岡・高瀬・朝日・三花・西有田・東有田・小野・大鶴・夜明・五和・前津江・中津江・上津江地区避難指示	12,895世帯、31,061人	
	18:00	大山・天瀬地区 避難勧告発令	2,889世帯、6,858人	
	18:10	市長からの大雨の注意喚起メッセージをケーブルテレビで放映		
	19:50	天瀬(赤岩湯・古湯・築ヶ瀬・天ヶ瀬)地区避難指示発令	113世帯、251人	
	20:00			天瀬橋氾濫危険水位(4.0m)超 4.01m 筑後川水系松原ダム洪水貯留 操作開始(700.00m ³ /s) 流量到達798.31m ³ /s
	20:45	隈庄手・竹田・三芳地区避難勧告発令	5,570世帯、12,696人	
7/7	21:00			小淵避難判断水位(4.0m)超 4.03m
	4:00			天瀬橋氾濫危険水位(4.0m)超 4.21m
	5:30	天瀬(4地区以外)・大山地区避難指示発令	2,776世帯、6,607人	

◆令和2年7月豪雨時の対応時系列③ 《参考》

日時		内容	備考	災害状況等
7/7	6:00			天瀬橋氾濫危険水位(4.0m)超 4.98m 以降欠測
	6:15	中津江・天ヶ瀬付近記録的短時間大雨情報が発表される		
	6:30	咸宜・桂林・田島地区避難勧告発令	6,113世帯、13,696人	
	6:48			国交省エリアメール警戒レベル4 筑後川、庄手川、玖珠川で氾濫のおそれあり、小湊で水位上昇、氾濫発生の危険あり
	7:00			小湊氾濫危険水位(4.5m)超 4.91m 中津江村栃野地区山崩れにより老人福祉施設等へ土砂流入
	7:33			天ヶ瀬温泉街玖珠川流域で人が流された情報が入る
	8:00			北友田3丁目市営住宅床上浸水のため17世帯が2階へ避難
	8:05			筑後川右岸(北友田地区)氾濫発生
	8:30			小湊氾濫危険水位(4.5m)超 5.39m
	8:43			国交省エリアメール警戒レベル5 筑後川で氾濫発生、北友田地区先で河川の水が堤防を越え越水
9:15	災害注意喚起情報発信	大雨により河川が増水、河川や水路には絶対近づかないよう		

◆令和2年7月豪雨時の対応時系列④ 《参考》

日時		内容	備考	災害状況等
7/7	10:00	県知事へ自衛隊の災害派遣を要請		
	10:30	筑後川水系下釜ダム異常洪水時防災操作開始		7/8 7:10終了
	12:33	市長メッセージ発信	今回の豪雨災害は、これまで経験したことがない状況。大雨の予報もでており、松原ダムの放流も予測され、河川の大幅な増水も予想される。事態は深刻であり、昼間の明るいうちに避難をお願いします。	
7/8	0:00			筑後川水系松原ダム流入量 2,806.47m ³ /s、 放流量1,102.17m ³ /s
	0:05			国交省エリアメール警戒レベル4 筑後川、庄手川、玖珠川で氾濫のおそれあり、小湊で水位上昇、氾濫発生危険あり
	0:45			筑後川右岸(北友田地区)氾濫発生
	1:07			国交省エリアメール警戒レベル5 筑後川で氾濫発生、北友田地区先で河川の水が堤防を越え越水
	10:00			石井工業団地内に70~80cm浸水
	10:15			天瀬杉河内地区山崩れにより家屋倒壊
7/9	13:22	注意喚起情報発信	明日にかけて非常に激しい雨が降り、大雨となるおそれがある。	

◆令和2年7月豪雨時の対応時系列⑤ 《参考》

日時		内容	備考	災害状況等
7/10	13:20	土砂災害警戒情報発令		7/12 5:17解除
	13:44	洪水警報発令		7/12 5:17解除
	14:16	注意喚起情報発信	大雨警報に加え洪水警報、土砂災害警戒情報が発令され、明日にかけて非常に激しい雨が降ると予測されている。命を守る行動をお願いする	
	17:20	県知事に自衛隊の撤収を要請		
7/11	15:00	前津江・中津江・上津江・大山・天瀬地区避難指示継続 三花・高瀬・東有田・小野・大鶴・夜明・五和地区 避難勧告へ切替 その他の地区 避難準備・高齢者等避難準備へ切替		
7/13	6:00	中津江・上津江・天瀬地区 避難勧告へ切替 その他の地区 避難情報解除		
	14:30	中津江・上津江地区 避難指示発令	706世帯、1,469人	
	15:47	大雨警報（土砂災害）発令		7/14 20:10解除
	16:30	小野・大鶴・夜明・前津江・大山地区避難準備・高齢者等避難準備発令	2,552世帯、6,313人	
7/14	1:58	洪水警報発令		7/14 10:52解除
	20:30	中津江(栃原を除く)・上津江地区避難勧告へ切替 小野・大鶴・夜明・前津江・大山地区避難準備・高齢者等避難準備解除		

◆令和2年7月豪雨時の対応時系列⑥ 《参考》

日時		内容	備考	災害状況等
7/15	20:00	注意喚起情報発信	これまでの雨で地盤は水を含み、少しの雨でも土砂災害の危険性がある。今後の気象情報には十分注意を	
7/19	11:30	注意喚起情報発信	夜遅くまで、急な強い雨や落雷が予想されている。土砂災害や河川の増水に十分注意を	
7/21	16:50	中津江(川辺自治会栃原1班を除く)・上津江・天瀬地区 避難準備・高齢者等避難準備へ切替		
7/23	9:00	注意喚起情報発信	今夜から25日にかけてまで大雨になる予測。防災ラジオの乾電池を用意するように	
	15:00	中津江(川辺自治会栃原1班を除く)・上津江・天瀬地区 避難勧告発令	2,610世帯、5,753人	
	18:30	注意喚起情報発信	大雨警告予告が発表中。24日明け方から25日まで大雨になる予測。今後の気象情報には十分注意を	
7/24	4:11	大雨警報発令		
	6:00	小野・大鶴・夜明・前津江・大山地区避難準備・高齢者等避難準備発令	2,552世帯、6,313人	
	6:39	洪水警報発令		7/24 16:04解除
	7:10	土砂災害警戒情報発令		7/24 14:00解除

◆令和2年7月豪雨時の対応時系列⑦ 《参考》

日時		内容	備考	災害状況等
7/24	16:10	中津江(川辺自治会栃原1班を除く)・上津江・天瀬地区 避難準備・高齢者等避難準備へ切替	川辺自治会栃原1班15世帯、54人	
7/28	13:45	大雨警報発令		7/28 19:03解除
7/29	17:10	災害対策本部を災害警戒本部へ切替		
8/1	17:10	中津江川辺自治会栃原1班 避難指示解除		
8/3	16:00	災害警戒本部閉鎖		

**日田市では、次に・いつ・どんな災害
がおきても、市と市民が冷静に、迅速
に行動できるまちづくり（災害に強い
まちづくり）を目指しています。**

ご清聴ありがとうございました